

eco検定アワード2021 実施報告書



■ e c o 検定アワードとは

エコピープル (= e c o 検定合格者) が試験で得た知識をアクションに繋げていくための支援事業の一環として、他の模範となる環境活動を実践したエコピープルおよび複数のエコピープルからなるエコユニットの活動を称え、広く周知することを目的に実施している。

■ e c o 検定とは

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に関する幅広い知識を身に付けた人材を育成するために東京商工会議所が企画し、2006年から実施している検定試験。これまでのべ50万人が受験し、30万人のエコピープルが誕生している。

■ e c o 検定アワード2021実施概要

(応募期間) 2021年5月21日～2021年8月31日

(応募者数) エコユニット部門…16 エコピープル部門…7

(受賞者数) エコユニット部門…5 エコピープル部門…3

■ e c o 検定アワード2021 受賞者一覧

【エコユニット部門】

※同一賞内は50音順

(大賞) 国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学	・・・P3
(優秀賞) イオンモール株式会社	・・・P4
(優秀賞) ブランシエス株式会社	・・・P5
(奨励賞) アクリーグ株式会社	・・・P6
(奨励賞) 植田油脂株式会社	・・・P7

【エコピープル部門】

(大賞) 林 啓史さん	・・・P8
(優秀賞) 小林 由紀子さん	・・・P9
(奨励賞) 佐藤 秀樹さん	・・・P10

今回の受賞者の活動および過去の受賞者はこちらからご確認いただけます。

【エコピープル支援事業ウェブサイト】

<https://www.kentei.org/eco/people/index.html>





国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学

ユニット名：岐阜大学EMS専門委員会

(所在地) 岐阜県 (事業概要) 教育機関



活動のポイント

岐阜大学憲章の中に「環境に配慮した運営を行い、教育、研究、社会貢献に反映させる」を掲げ、環境ユニバーシティとして環境教育を積極的に進めるとともにeco検定の受験を学生の環境意識向上に位置づける。

環境リーダー育成教育

岐阜大学地域協学センターでは、文部科学省の地方創生推進事業として地域住民、自治体、企業、教育機関と連携し、地域の課題解決や地域活性化に貢献する人材育成に取り組んでいる。2021年4月に次世代地域リーダー育成プログラムに、環境社会を担う人材育成教育として「環境リーダーコース」を新設した。次世代地域リーダーに必要な素養や能力を養うとともに、自ら主体的に環境問題に取り組むことのできる人材の育成を目指している。



学生主体の自然再生

岐阜大学グリーンキャンパス構想の実現に向け、学生の視点からキャンパスの自然環境を考え活動している。1975年に「岐阜大学自然保存地」と指定以降、半世紀近く放置され自然環境の劣化が進んだ池で土壌シードバンク調査や「かいぼり」など具体的な再生方策を学内外の専門家から協力を得て、学生主体で検討し取り組んでいる。また、環境報告書の作成において学生編集委員会を立ち上げ、学生による紙面づくりを行っている。



学生参画のEMS運営

有志の学生が集まり、本学が認証取得しているISO14001の概要や内部環境監査の手法を専門的に学ぶことで、環境についての理解を深めている。さらに、教職員とともに内部環境監査に監査員として参加し、監査後にはフォローアップ研修で意欲の向上に努めている。監査員として活動する学生は毎年増えており、学長より「内部環境監査員研修修了証書」を授与する制度を設け、学長と環境活動について意見交換を行う機会としている。



優秀賞

イオンモール株式会社

エコユニット部門

(所在地) 千葉県

(事業概要) 大規模地域開発及びショッピングモール開発と運営、不動産売買・賃貸・仲介

活動のポイント



中長期計画として、気候変動対策やゼロエミッションモールを掲げるとともに、全社員のeco検定合格を目指す。現在は全社員1842名のうち、1531名がeco検定に合格。

国内の商業施設として初めての FSC®プロジェクト認証（全体認証）取得

イオンモール新利府南館（宮城県）の「モクイクひろば」において、国内の商業施設として初めてFSC®プロジェクト認証（全体認証）を取得した。宮城県産材を取り入れた遊び場で、使用したすべてのスギ材及びびナラ材にFSC認証材を採用している。

- ・プロジェクト名：イオンモール新利府南館「モクイクひろば」
- ・認証発行日：2021年1月20日
- ・認証番号：SA-PRO-008357
- ・ライセンス番号：FSC® P001850



脱炭素の取組を促進

「イオン脱炭素ビジョン2050」に基づき、イオングループとして2050年に向けて「脱炭素社会」の実現を目指している。2020年度に開店したイオンモール上尾（埼玉県）においては、使用電力の100%を再生可能エネルギー由来のCO2フリー電力で賄い運営をしている。昨年度の藤井寺ショッピングセンターに加え、イオンモール松本、イオンモール津南にてPPA（電力販売契約）モデルを展開した。



全国のモールでの環境啓蒙イベント展開

新型コロナウイルスの感染拡大により、全国の当社モールも休業や営業時間の短縮、イベント開催の制限等を行う中で、最大限環境配慮のイベントを実施した。モール内出店企業とのエコバッグ制作といったコラボ企画、地域の小中学校等の環境に関する学びの場や作品展としての場の提供、市内他企業との自社の環境に対する取組を記入したパネル展示、自然の素晴らしさを知ってもらうパネル展示や体験イベント、地域と共同して行う清掃活動等を開催するなど、イベントを通じて地域顧客へ環境啓蒙を実施した。



優秀賞

ブランシェス株式会社

エコユニット部門

(所在地) 大阪府
(事業概要) ベビー、子ども、婦人衣料の企画製造販売



活動のポイント

アパレル業界は環境汚染産業2位だという事実を真摯に受け止め、カーボンオフセット出来る持続可能な取り組みの実現をめざすとともに、社内の環境意識の向上にも努める。

「サンゴの森」

2010年から地球温暖化等で激減しているサンゴの再生のため、ハンドタオルの売上の10%を(有)「海の種」に寄付し、沖縄の海にサンゴを植える活動をしています。
・2021年3月5日「サンゴの日」発売の第9弾となる新作は、パイル部分を100%オーガニックコットンの今治タオルヘリリニューアル。
新パッケージは紙素材に変更した。
2021年7月末現在で第1弾からの売上枚数は17500枚、沖縄の海に植えられたサンゴは268株。



ステイホーム環境活動

“ステイホームで環境活動”と題してコロナ禍でも環境に興味を持ってもらう2つの企画を実施。
①小学生以下の子どもたちを対象に「サンゴと海の生き物の絵」を募集し、賞品として絵と名前をプレートにしてサンゴ植え付け、感謝状を贈った。
②「ステイホームでウミガメ放流に参加」支援先のNPO「ELNA」実施の小笠原諸島で保護し孵化した子ガメたちを海へ放流する企画に参加。その子ガメたちの名前の募集を行った。



全国のモールでの環境啓蒙イベント展開

2016年から毎年、「海の日」に青いサンタになって海をキレイにする活動「BLUE SANTA ゴミ拾い」に参加している。
2020年は「大阪海さくら」との共催として、ゴミ拾いポータルサイト「BLUESHIP」でイベント告知を行い、マスク着用、ソーシャルディスタンスを守っての実施開催となった。場所は大阪淀川河川敷にて、総勢30名で多くのゴミを拾った。





アクリーグ株式会社

ユニット名：アクリーグ環境管理委員会

(所在地) 栃木県 (事業概要) 行政事務支援コンサル



活動のポイント

環境に関する中期計画として「環境リスク低減のための調査用タブレット使用推進」、
「LED化業務の受託」を掲げるとともに、全社員エコピープルとなることを目指す。

eco検定普及活動

栃木県での優良企業表彰を受けたことを機に県内の中小企業の見本となるべく、社員のeco検定合格者率100%を目指し取り組んでおり、それを社外的にも発信することで、社外の団体への意識づけなど啓蒙活動に繋げている。

(2021年8月時点での、社内合格者率は95.23%)

また、社業と環境保全を生かす議論を行い、環境目標を掲げ、自社開発システムを用いた、弊社受託の環境ビジネス業務でCO2排出約3,926tの削減に寄与した。



環境活動の推進

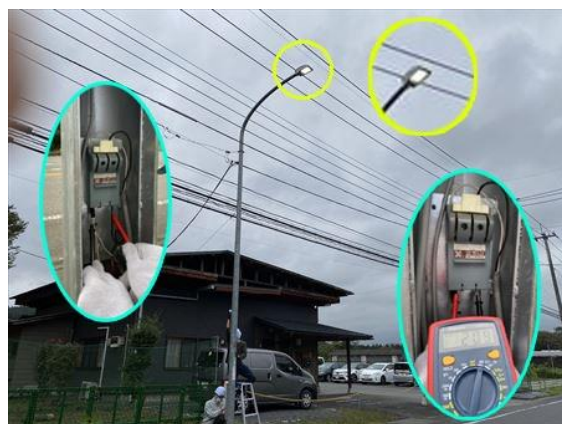
2008年より栃木県日光市足尾での荒廃した山々に木を植える植樹活動へ、2015年より栃木県小山市が実施する渡良瀬遊水地での外来植物除去活動へ定期的に参加している。渡良瀬遊水地は条約管理局が管理するラムサール条約湿地に登録されており、2020年10月30日に当社は「令和元年度小山市渡良瀬遊水地湿地保全サポート団体」として小山市より感謝状を受領した。



低炭素投資の促進

栃木県の道路照明灯LED化ESCO事業において、J-クレジット制度を活用したプロジェクト登録を行った。今後、プロジェクト計画に基づき、温室効果ガスの排出削減量を計測ならびに報告書として取りまとめ、認証後にJ-クレジットの発行が行われる。

J-クレジット制度は、温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度で、低炭素社会実行計画の目標達成やカーボン・オフセットなどに活用される。





植田油脂株式会社

(所在地) 大阪府

(事業概要) 廃食用油のリサイクル



活動のポイント

廃食油のリサイクルに取り組み、廃食油を原料とする「リサイクル石けん」の地元学校や商業施設への普及に努める。売上の一部を「みどりの募金」へ寄付するとともに、道路清掃など地域密着での活動にも取り組む。

グリーンリサイクル

環境負荷低減効果のある「グリーンリサイクル業務用リサイクル石けん」を推奨し、売上1缶あたり50円を「みどりの募金」に寄付している。植樹はCO2削減に繋がり、売手も買手も世間も環境も良くなるプロジェクトである。地元大東市の学校給食会の協力を受け404缶を食器洗浄として利用、その他に商業施設のゴミ庫清掃でも使用された。計414缶の販売、社内募金箱と併せ「緑を増やす」活動に寄付。今後は更にエシカル消費を強調していく。



アドプトロード清掃

「地球のきれいをお手伝い」を合言葉に大阪府と大東市の制度を活用し近隣の清掃活動を行った。活動を行うまでは通勤する普通の道路だったが「ゴミを拾う」ことに着眼点を持つと色々なゴミに出会う。食物・袋・空缶・瓶・ペットボトル・タバコなど、1回の清掃で45ℓの袋が6袋程集まる。「放置し続けると?」「今まで誰が清掃してた?」と意識が芽生え、活動後に道路の劣化などの報告会を設けるようになった。



エコピープル50%越え

社員教育の一環でeco検定受験を開始した。環境に関心をもって貰い知識を深め、そして広める。それは業務命令という強制ではなく先輩の背中を見て自主的に受験し、エコピープルを目指す取り組みである。毎年数を重ね2020年には更に9名受験し合計29名に。不合格になっても何度もチャレンジする社員もいる。パート従業員もエコピープルになっている。目的は合格ではなく環境問題に関心をもつ人を一人でも増やすことである。





林 啓史 さん

(株)バスクリン・林中小企業診断士事務所

(主な活動エリア) 東京都、静岡県



活動のポイント

銭湯のサステナブル活動支援に取り組むとともに、創業支援では、創業希望者に対して環境やSDGsの重要性を説く。

銭湯の経営活動支援

銭湯のサステナブル活動支援を行っている。
東京都生活文化局の調べによると、都内の銭湯の軒数は、2008年には879軒だったが、直近のデータによると2020年度には453軒と半数にまで減少。銭湯の経営を立て直す依頼を行政より受け、2015年4月から現在まで活動している。この活動を実施する以前は、毎年40軒前後の銭湯が廃業していたが、2015年4月以降の廃業軒数は20軒前後と廃業軒数も半減している。



瀬戸川の水環境を知る

瀬戸川（藤枝市）の水環境を知るために継続して調査を行っている。今年で5年目になるが、（今年度は7月20日に実施）5年間実施して分かったことは瀬戸川が極めて問題の無い清流であるということである。
このことは、当初、周辺の工場が排水処理設備を設置せずに瀬戸川に排水していて、川の生態系を含め、環境問題を危惧していたが、影響が無いことが実証され、自身の安心材料にもなっている。



環境教育の講義

創業を目指す方をバックアップする創業セミナーの講師をしている。経営に関する一通りの基礎知識を学んでもらっているが、創業を目指す人の殆どが、環境やSDGsについての認識が薄いので、講義の中で環境やSDGsについての重要性を認識していただくカリキュラムとしている。
同時にパーパス（事業の存在意義）についても、深く考えていただき、新たなビジネスチャンスに向けてスタートを切ってもらおうとしている。



優秀賞

エコピブル部門

小林 由紀子 さん

特定非営利活動法人 e - p l u s 生涯学習研究所

(主な活動エリア) 岐阜県



活動のポイント

時流に応じた環境教育に取り組むとともに、コロナ対応の授業も積極的に展開。
「環境問題とSDGsのつながりを知ることは「地球人としての生き方」を示してくれる」

海洋プラスチックをテーマにした環境教育

岐阜市環境部と協働し、岐阜県森林環境税を活用した海洋プラスチックについて1年間の環境学習計画を作成した。4年生の社会科の「ごみとリサイクル」や5年生の「総合的な学習の時間」で水や川をテーマに学校独自の体験学習を入れたプログラムを作り環境部各課と協力し授業をした。まとめの学習ではSDGsの学習と結びつけたワークシートを作成し「自分たち取り組みが持続可能な社会に貢献できること」をともに考えた。



大人のための環境講座

身近なエネルギーをテーマにした講座では気候変動の緩和策としての省エネルギー、緩和策として「気候変化」や「ゲリラ豪雨」「ハザードマップ」などの適応策について紹介し「環境のつながり」を伝えた。身近な地域を知り地域を守る気持ちが持続可能な社会を構築するSDGsにつながると考えている。SDGs地球の未来を考えるコミュニケーションツールであり、みんなの思いを持ち寄って持続可能な社会が実現可能になると紹介している。



ふる里を知る環境学習

「ふるさとの自然を知って自分にできることを行う」をテーマにした2つのユネスコスクールに「楽しく地域を知る」ための環境学習を行った。産業、歴史、自然環境と現代社会との関係性を「環境のつながり」として説明した。持続可能な社会を目指すための「環境について知る」から「今できる事を行う」「SDGsを学び未来に向かってできることをしよう」を目標に学習プログラムを提供した。タブレットの活用のためキーワードを示した。





佐藤 秀樹 さん

江戸川大学 社会学部 専任講師

(主な活動エリア) バングラデシュ、千葉県松戸市、流山市、東京都新宿区



活動のポイント

環境教育や市民社会におけるSDGsの拡大・定着をはじめ、バングラデシュでの農畜林水産物の6次産業化による生計向上プロジェクトなど、国内問わず精力的に活動している。

高等教育機関における環境教育の促進

大学や専門学校で環境系の授業において、学生が環境教育のリーダーとなった場合を想定して伝えたい環境学習プログラムの企画立案およびその内容のオンライン発表や、環境問題を解決していくための実施可能な環境配慮行動を考えてもらうアクション・プランの作成を行った。当事者意識を高める取り組みを取り入れることで、学生同士の学びの相乗効果を高め、地球温暖化、循環型社会やSDGsに関する内容等を通して身近な生活との関わりについて理解を深めることができた。



市民社会におけるSDGs普及啓発活動

自分の暮らす千葉県松戸市において、市民レベルでのSDGsの考え方を広めていく取り組みを、市民活動団体のメンバーの一員として実施した。具体的な活動内容としては、市民を対象としたSDGs基礎講座の実施や、「松戸市デジタル消費生活パネル展」にてSDGsパネルの展覧を行った。SDGs基礎講座では地元で市民活動を実践している人を講師として招聘することやその内容を取り入れることで、市民目線でSDGsを自分事として捉える視点を提供することができた。



農畜林水産物の6次産業化による生計向上事業

所属している環境NGOの一員として、バングラデシュの農村生産者(265世帯)を対象とした農畜林水産物の6次産業化による生計向上の取り組みを実施した。本事業では、協同組合の設立とその事務所兼倉庫の建設、商品・加工技術の開発とローカル市場での試行販売、エコ・グリーンツーリズムにおけるコテージ4棟と自然観察ボートの建設等、施設・組織基盤や商品開発を進めていくための土台を構築した。また、11の小学校と一緒にマングローブ樹木等27,700本を植林し、住民の森林保全とその適切な利用に関する意識向上に寄与した。



「eco検定アワード2021」審査委員会

(敬称略・順不同)

委員長	鶴田 佳史	大東文化大学 社会学部社会学科 准教授
委員	井上 由美子	環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室 室長補佐
委員	猪又 陽一	アマタ株式会社 チームマネージャー
委員	神田 修二	いであ株式会社 副社長執行役員・国土環境研究所 生物多様性研究センター長
委員	黒柳 要次	株式会社パデセア 代表取締役社長
委員	吉田 広子	株式会社オルタナ オルタナ編集部 副編集長
委員	大下 英和	東京商工会議所 産業政策第二部長